

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と授業改善	○基礎的、基本的な知識・技能を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習を活用し、漢字・計算の繰り返し学習や視写などを行い、基礎・基本の定着を図る。 教材に関連した作品や様々な分野の本を紹介し、読書への意欲を高め、読書活動の充実を図る。 どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。 自主学習の充実を図る。 姿勢体操、体幹体操を取り入れ、姿勢保持や集中力の持続を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図るための繰り返し学習に関するアンケートの項目において、「あてはまる」と回答した教職員が90%以上。 わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童・保護者・教職員が85%以上。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートにおいて、わかりやすい授業づくりに関する項目で「あてはまる」と子回答した教員が96%であった。これは、児童に合わせて授業を考えながら、日々実践していることがうかがえる。また、児童アンケート項目においても「教え方にいろいろ工夫している」と答えた児童が89%であった。このことより、ICTを活用した授業作りや「めあて・ふりかえり」のある授業などが教師、児童共にわかりやすい授業だと実感しているといえる。 児童アンケートにおいて「わかりやすく楽しい」と答えた児童は、86%であった。概ねの児童が授業に参加して、楽しく学習していると言える。しかし、24%の児童は、学習することが楽しいと思えず、1時間窮屈な思いをしていると言える。全員参加の授業をめざす意味でも、学習を苦手としている児童や楽しいと感じていない児童も参加していく工夫が必要である。 授業作りだけでなく、45分間の授業に集中して取り組むためには、授業に向かうためのスキル(姿勢を保持する力やバランス力、鉛筆の持ち方など)を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> その学年で必ず習得しなければいけない重要項目について4月当初に学年で把握を行い、朝学習や宿題等でくり返し取り組み、確実に習得を図る。 学校全体で取り組んでいる授業作り「めあて・ふり返りのある授業づくり」や「一貫性のある授業づくりや単元づくり」などを全職員が意識しながら今後も取り組んで行く。また、学年間で教える内容に差異がないように授業の話を行い、日々情報交換をしていく。 ICTを効率よく活用するために、実践研修を行い授業スキルを磨いていく必要がある。 	授業の中にタブレットが入ってきていることはとてもよいと思う。今後も積極的に取り入れていってほしい。姿勢や鉛筆の持ち方なども、引き続き指導していくことは大切である。
	○学習指導の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> 学習にみんなが主体的に参加できるための場づくりについて模索する。 ICTを活用し、視覚的にわかりやすい授業の改善に努める。 単元の連続性、一貫性を持たせた授業作りにつとめる。「ふり返り」から始まる授業作りを意識し、単元全体の授業プランを考える。 「めあて」と「ふりかえり」を取り入れ、見通しを持って学習に取り組み、学びの成果を可視化する。 					
学力の向上	○互いを尊重し合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 互いの良さを見つけ、互いに伝え合うことをめざす授業づくりに取り組む。 授業にペア学習やグループ学習をとり入れる。 安心、安全な学級作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進部からのアンケートにおいて、「研究主題を意識して進められた」について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた教師が90%以上。 「書く活動を取り入れる」ことについての教職員アンケートにおいて、「あてはまる」と答えた教師が90%以上。 教職員アンケートにおいて、「目標と評価を一体化させるなど、子どもが理解しやすい「よくわかる授業づくり」を実践している」において、「あてはまる」と答えた教師が90%以上。 児童が主体的に学習に取り組んでいけるようなアプローチを提案し、全職員で検討する。外部講師を招いて指導助言を得る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> めあて、ふりかえりを軸に、話し合い活動や交流する場を設け、主題を意識して通り組むことができた。 研究授業や、それに向けての学団研究を通して、主体的に参加するためのアプローチについて話し合えた。 	来年度は「評価」についても、研究を進めていきたい。	書く活動を意識的に保障していることは素晴らしい。タブレットが入ってきてもそれができていることが分かった。
	○思考力・判断力・表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。 伝え合うこと、学び合うことについての目標と評価が一体となった、子どもがよくわかる授業づくりを検討する。 みんなが主体的に学習に参加するためのアプローチについて模索し、研究授業で提案する。 					

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	特別支援教育の推進、充実	○計画的・組織的な支援体制の整備	・共に生き、共に学ぶ力を育て合う仲間づくりの実現を図る。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。 ・関係諸機関と連携を取りながら、通級指導や巡回相談、コンサルテーションなどを有効に活用し、支援の必要な児童への理解を深め、支援方法を充実させる。 ・支援が必要な児童については校内支援委員会で情報を共有し、職員全体へ共通理解を促していく。必要に応じてケース会議を開く。	・様々な子どもの特性を共通理解する研修を行う。 ・月1回の校内支援委員会が児童理解のために効果的に機能している。	A	・児童の実態を把握し、特別支援教育に対して関心を持ち、工夫した授業づくりや学級経営に取り組みもうとする職員の意識は高くなっている。 ・なかよし研修会については、5月に各学年担当窓口が各学年の学打ちの時間を使い、児童(新1年生・要配慮児童)やその児童の教育的ニーズについて把握、情報共有した。その他、夏季研修やスキルアップ研修を行えなかったことが反省として挙げられる。2月末の生指・特支合同研修会は、児童の支援に生かせるような内容を計画したい。 ・部会(校内支援委員会)で情報交換を行い、児童についての共通理解ができた。事例を挙げてより具体的な支援の検討ができるように委員会の内容の工夫もあればよかったと思う。 ・配慮が必要な児童について、部会を開いて支援体制を協議し、校内や各関係機関と連携して実践することができた。 ・転籍・進学に関して話し合いが必要な児童については、丁寧に協議する必要があるため、早めに保護者と話をしていかなければならない。 ・前後期に個別の指導計画を立て、支援方法を精査することができた。	・効果的な支援方法を共有し、共通理解しながらさらに意識を高めていく。 ・校内アンケートの中には、「年度初めに、校内全体でなかよし在籍児童の情報交換会があれば、他学年の児童についてもよく分かるのではないか」という回答もあり、来年度もなかよし学級と部会で研修のもちかたについて検討していきたい。 ・校内支援委員会の内容を工夫する。 ・児童にとって望ましい在籍、進路を考えていくため、保護者とも相談しながら計画的に話を進めていく。 ・PDCAサイクルを確立するため、個別の指導計画を見直したり、加筆など行ったりしてより充実した指導計画を目指し、次年度の引き継ぎに活用していく。	本校だけでなく、全国的に特別支援学級在籍児童が増えて来ていることを理解した。引き続き、丁寧に、細かな支援をお願いしたい。
		○個別の指導計画の作成	・積極的に個別の指導計画(サポートファイル)を作成し、サポートファイルや学年間の引き継ぎ資料を通して、継続的な支援を目指す。	・個別の指導計画に基づき、一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている。				

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな	問題行動への指導・対応	○児童理解のための研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や研修会で児童の情報を共有して理解を深め、指導力の向上を目指す。 ・学級担任だけでなく、学年・学校全体で児童に関わっていく。 ・生徒指導担当を中心に、中学校とも連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、生活指導部会を開き、情報交換を行う。 ・職員会議で、各学年から児童の様子を話してもらい、職員全体で共通理解を図る。 ・担当者会で共有した情報を、部会でも共有する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度の部会で児童の情報交換を行い、学校全体で共有することができた。職員会議でも各学年から直接話をするので、学校全体の様子を共有することができた。 ・「ヤングケアラー」「問題行動への対応」「生徒指導提要の改訂」等について研修時間を持ち、様々なケースにおける対応を学ぶことができた。 ・いじめアンケートの実施により、いじめの実態把握を行うことができた。認知したいじめに関しては指導をし、行為自体は止んだが、同一の児童に対していじめと認知するケースもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、部会や職員会で問題行動や気になる児童について情報を共有する場をもつ。 ・認知した児童に関しては、いじめとなる行為が止んでいたとしても、継続的に経過を観察するとともに、保護者との情報共有を密に行っていく。 	不登校だった児童が登校できてきたことは良かった。コロナ禍不登校が増加していないか、それが原因で不登校やいじめにつながっていないか気になっていたが、説明を受けて安心した。何か支援できることがあれば学校運営協議会として行っていきたい。
		○いじめの未然防止・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や職員会議等で問題行動について共通理解することで、多様化する事案に対応できるようにする。 ・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。 ・「いじめアンケート」を実施し、個別に聞き取りを行い、適切に対応をする。 ・不登校傾向にある児童やその家庭と密に連絡を取り合い、登校できる手立てを一緒に考え、適宜関係機関につないでいく。 ・不登校傾向にある児童のために別室を開設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた事例対応研修会を開く。 ・学期に1回以上いじめアンケートを実施する。 ・いじめ問題対策委員会を必要に応じて開き、すべてのいじめ案件について対策を考える。 ・不登校傾向のある児童や長期欠席となっている児童を、関係機関へつなぐ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・別室や不登校支援員を活用することで、登校できるようになったり教室に復帰できたりする児童がいた。また、やまびこの郷やSSW等、外部機関と連携することで、児童だけでなく保護者への働きかけもすることができた。 ・人手が少ない中でも、別室に毎時間職員や子どもサポーターを配置し、安心して過ごせる居場所を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童や行き渋りを繰り返す児童と家庭に対して、学校だけで抱えるのではなく、外部機関へ積極的に情報を共有し、多方面からアプローチしていく。 ・今後も安心して過ごせる居場所作りができるように、毎時間の人的配置を行う。 	
		○安心できる居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・別室を開設し、毎時間職員を配置することで、だれもが安心できる居場所をつくる。 					

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	○生徒指導体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の課題より、生活指導目標を、「目を見てあいさつをしよう」に加えて、「名札をつけよう」を追加する。 ・生活目標や生活のきまりを守るように、日頃からの声かけや掲示で児童に指導する。 ・学年会や部会、職員会などで、児童の様子について振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。 ・問題行動発生時の緊急連絡体制や、日常の連絡・相談体制を見える化し、生徒指導体制の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「先生たちは、友だちと一緒に生活するためのきまりについて教えてくれている」と回答する割合が90%以上になる。 ・教職員アンケート「問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が90%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果では、95.1%の児童が肯定的な回答だった。生活目標や生活のきまりに関しては、一人ひとりが理解はしているものと考えられる。だが、あいさつをしなかったり、名札をつけていなかったりする児童の姿も見られる。引き続き継続的に指導をしていく必要がある。 ・教職員アンケートの結果は、100%肯定的な意見だった。今後も、部会や職員会等で情報共有する場を積極的にもつようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式で学校全体に指導するだけでなく、各学級でも定期的に生活のきまりについて指導していく。 ・引き続き部会や職員会で情報共有を行ったり、問題行動が起こった際の動き方について考える場をもったりする取り組みを続けていく。 	さまざまな問題行動に対して組織的にできているという説明を受けた。
	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・親切・思いやりの心を持つ子どもの育成 ～挨拶する礼儀正しい子どもの育成～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動(学級活動や児童会活動)と生徒指導と連携していく。 ・学校や地域社会の実態を踏まえ、道徳科の年間指導計画の作成に当たり、全体計画に示した重点的な指導を目指す。 ・必要に応じて年間指導計画の改定を図る。 ・主に教科用図書を中心とした年間指導計画をもとに授業に取り組み評価ができるようにする。 ・道徳部会、学年で評価の視点を共通理解する。 ・毎時間の学習の振り返りを記録している「道徳ノート」や授業中での発言・態度から児童の成長を認め、励ます評価文を目指す。 ・内容項目を教材と結び付けて、ねらいを明確化・具体化した授業を目指す。 ・授業の中で、対話で考えを深めるために有効な「問い返し」の検討を図る。 ・道徳授業を深める手立てとして、ローテーション授業ができるようにする。(児童理解・教材研究の深まり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会のあいさつ運動や生活目標を生かして、あいさつのできる良い学級環境を作る。 ・児童アンケート「先生や友だちにあいさつをしている」と回答する割合が80%以上になる。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている」と回答する割合が70%以上になる。 ・2月末に各学年の年間指導計画を見直す。 ・各学年別の4つの内容項目での評価文例を参考に評価の視点を学年で共通理解する。 ・道徳ノートでの振り返りの感想には、今日の授業のねらいである道徳的価値を捉えた自分との関わりの記録文が書けるようになる。「今の自分は～」「自分だったら～」と自分ごととして捉えられているか) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会のあいさつ運動では、東門と西門で明るいあいさつをして呼びかけることができた。また、生活目標を教室に掲示されることで児童が1年間の目標と意識することができた。 ・児童アンケート「自分は先生や友だちに進んであいさつしている。」と回答する割合が89.1%であった。また、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている」と回答する割合が、68.4%で昨年度より下回っている。「まったくあてはまらない」と回答している児童の割合が11.3%であった。 ・前学年の指導計画の見直しを参考にすることができた。また、児童の発達段階や実態に合わせて教材を選択することができた。 ・各学年の評価文例の書き方例や評価文を参考にすることで児童の実態把握や評価の書き方の参考になった。 ・道徳教科書と兵庫副教材の長期休業日の親子読書のすすめを年間指導計画に入れている。また、音読カード(4年生)で週末に道徳読書を進めることができた。 ・内容項目のめあてをねらいにすることで考える手立てになった。また、「それはどうして?」「どういうこと?」など子どもに問い返していくことで考えを深めることができた。 ・ローテーション授業実施して、(4年生) ・道徳ノートでは、教材の内容やねらいに応じて書かせ方を工夫している。また、ワークシートを作成して、児童の考えの変容や気づきが視覚的に見える工夫をした。(5学年) ・児童は、学校ではあいさつをしていると思っている。しかし、保護者アンケートでは「あいさつをしてもどってこない」など進んで自分からあいさつしないので学校で指導を望んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動から学級会活動へとつなげていく活動を実践していく。 ・児童の発達段階や実態に合わせた内容項目での教材を選び、A 自分との関わりに関することでの礼儀やマナーに関することやがまんすること心をつねらいたする授業を土台として、他人への親切・思いやりの心の向上を図る。 ・道徳的価値での内容項目の知識は道徳授業を通して、それを行動に移していくのは特別活動での学級会活動を母体とする。また、できたことを共有する場の工夫を考える。 ・実践的意欲と実践をつなげるためにソーシャルスキルトレーニング的なこともどこかで取り入れて、自分ができるという納得感を持たせる機会を図る。

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	体力の向上	○体力づくり	○体育の授業の中で、運動量を確保し、運動に親しむ。 ・年間カリキュラムに沿って、多様な運動に親しみ、体力の向上を図る。 ・前年度スポーツテストの結果から、投力・持久力の弱さが見られた。授業の中で運動量を確保し、力の向上を図る。 ・新型コロナウイルスや熱中症に配慮しながら、外遊びを促す。 ・体育大会を全校で取り組む形に近付け、運動の楽しさを実感させる。	・単元ごとに学年内で教材研究を深め、児童の実態に応じた場の設定や教材の選択をする。 ・低学年段階からゲーム領域でベースボール型を取り入れたり、走り活動を積極的に取り入れたりする。 ・放送等も活用しながら、外遊びを促す。 ・内容を精選し、午前中で完結する体育大会の土台をつくる。	B	・コロナウイルスの感染状況の対応に応じて授業実施ができた。 ・「阪神タイガースゲストティーチャー」で外部講師を招き低学年で実施した。 ・体育大会を全校で行えた。 ・1, 2年生で遊具の使い方などを指導することにより、遊具でのけがが減った。		本校の子どもたちは、休み時間も元気に遊んでおり、体力についてはある方だと思う。鬼ごっこやSケンなど昔からの遊びもできたらいい。公園で遊ぶ姿も増えてきたように思う。
		○安全に配慮した授業づくり	○体育の授業や休み時間に児童が自ら安全に配慮できる力を養う。 ・年間カリキュラムの中で(特に1, 2年生)遊具に使い方に触れ、児童が安全に体力を向上させることができるよう指導する。 ・遊具だけではなく、体育で扱う道具の扱い方について授業の中で指導する。 ・安全に気を付けることも体育の主体的に学習に取り組む態度の一つであることを理解し、指導内容に入れる。	・学年で教材研究を深め、児童の実態に応じた場の設定や教材の選択をする。 ・低学年段階はしっかりと指導してから外遊びの許可を出すことや、学校全体として安全に配慮した授業構成や休み時間利用になっているかを確認する。		・カリキュラム通りに授業を出来たが季節に合わせての見直しと物品の修理と購入が必要。 ・冬場の授業が寒いという声が上がった。	・カリキュラムの見直しが必要。 ・来年度から長ズボンを導入。	
		・新型コロナウイルス感染症に対応した手洗い・咳エチケット・換気の徹底・マスク着用・免疫力を高めるため十分な睡眠と適度な運動やバランスのとれた食事を心がけるなどの基本的な感染症対策を整備する。 ・環境衛生を良好に保つ。 ・心のケアに努める。	・新型コロナウイルス感染症について積極的に情報収集をし、対策をとる。 ・トランシーバーでの体調不調者連絡や第二保健室の体制づくりなど保健室の利用体制を整える。 ・例年以上に熱中症予防対策を行う。 ・感染症対策を徹底した健康診断を実施する。 ・保健学習カリキュラムを整備し、保健学習と性教育を行うとともに、月経指導を行う。	・児童アンケート「学校は、健康の大切さについて保健の授業や「保健だより」などで指導している。」についてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が75%以上になる。 ・保護者アンケート「学校は、健康の大切さについて保健の授業や「保健だより」などで指導している。」についてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が75%以上になる。 ・教職員アンケート「学校は、健康の大切さについて保健の授業や「保健だより」などで指導している。」についてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が75%以上になる。	A	・今年度は、新型コロナウイルス感染の状況の変化に対応し、学校組織一丸となって、臨機応変に全職員が迅速かつ丁寧に力を合わせて対応してきた。 ・児童、保護者、教職員ともにアンケートにおいてA(よくあてはまる)またはB(ややあてはまる)と回答する割合が児童・保護者・教職員ともに75%以上であった。(児童77.3%、保護者92.5%、教職員89%)	・国の動向を注視し、天小の実態に即して組織全体で対応していく。 ・保健の授業で、健康の大切さについて深め、保健教育の参観授業を行うとともに、ほけんだよりの配布時に学級指導をする。	トランシーバーを上手く活用されている。

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<p>○ホームページやGoogleクラスルームの整備、学校だよりなど地域への公開</p> <p>・ホームページやGoogleクラスルームで学校の情報を発信する。</p> <p>・保護者へGoogleのメール登録の声掛けをし、加入率を伸ばす。</p> <p>・多くの職員がホームページの更新作業に関わることで、できるよ、マニュアルを作成する等環境の整備を行う。</p>	<p>・各学年の活動の様子を月1回以上を目安に更新する。また、児童の活動の様子について、ホームページを通じて学校外へ発信する。</p> <p>・学校からの連絡をホームページやGoogleクラスルームで知らせる。</p> <p>・ホームページ更新マニュアルの作成と更新の啓発</p>	B	<p>・ホームページ更新に関するアンケート項目について「あてはまる」と回答した教職員は71%であった。</p> <p>・月1回更新できている学年やそうでない学年があった。全学年の更新頻度を上げるまでには至っていない。</p> <p>・Google クラスルームを活用して迅速にコロナ感染のお便り等お知らせすることができた。</p> <p>・マニュアルの見方や手順は周知していたが、更新の頻度は学年ごとにばらつきがあった。</p>	<p>・職員室ホワイトボードの更新表を活用して、更新を促す機会を多く設ける。また、担当から各学年へホームページ更新の声かけを継続して行う。</p> <p>・来年度も、引き続き個人情報に留意して学校からの連絡を迅速に保護者に伝えられるよう努める。</p> <p>・更新の手段として、引き続き、各学年最低1名(ICT担当)更新ができるよう研修を行う。</p>	<p>できれば、地域もGoogleクラスルームの連絡が入るようにしてほしい。</p>
	参観授業の実施	<p>・コロナ禍の中で、感染防止対策をしながら参観してももらえるよう計画し、1学期より、学期に1回の参観を実施する。</p>	<p>・学期に1回、計3回の授業参観を実施し、安心して参観してもらえるように計画する。</p>	A	<p>・今年度は、学期に1回、計3回の参観(オープンスクールを含む)を計画し、全て実施することができた。2学期には、保健・人権参観を実施した。昨年同様に、4グループに分け、廊下側の窓を開け、廊下からの参観とした。</p> <p>・感染対策を行いながら、体育大会、音楽会も実施することもでき、保護者の参観の機会を昨年度より多く設けることができた。</p>	<p>・来年度も、感染状況を考慮しながら参観の機会を確保し、参観の方法を改善していきたい。</p>	<p>今後は、さらに参観等に積極的に参加して、子どもたちの様子を知っていききたい。</p>

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校								
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
開かれ信頼される学校園	危機管理体制	○安全教育の取り組みと避難訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各種危機管理マニュアルの作成。 マニュアルを元に訓練を計画し、改善点をためて、次年度に引き継ぐ。 避難訓練の実施。 コロナ感染症対策を考慮しながら実施 	<ul style="list-style-type: none"> 火災時避難訓練、防犯訓練、緊急時下校訓練を年間各1回ずつ、年3回の一斉下校訓練を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。 訓練ごとに振り返りを行い、学期ごとに行う訓練は反省を取り入れて行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画以上に訓練を行い、コロナ禍の中でも、全校生が運動場に避難をする訓練も1回実施できた。また、各訓練ごとに反省をとり、次回の訓練の改善を行うこともできた。 毎月20日に点検を実施し、校内で修繕できることは毎月行えた。 一斉下校訓練と同時に、下校訓練を行う事ができた。コロナ禍以前の毎月実施を来年度行えるかは、今後検討していく必要がある。 長期休み前に、交通安全の指導と啓発を行えた。 警報発令による休みがなかったため、実施されなかった。 児童のアンケートの肯定的意見が91.1%保護者のアンケートが53.1%、職員が96%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練の回数が非常に多い一年であった。緊張感を持つために、必要な訓練を精査していく。また、マンネリ化を防ぐため、マニュアルを見直ししながら変化をつけた訓練を意識していきたい。 大規模改修で修理できることなども意識し、今後も1ヶ月ごとの点検と修繕を行っていく。 大きな交通事故の報告はなく、安全に過ごす事ができていた。細かい交通ルールに関しては引き続き児童に周知していく必要がある。 下校指導の回数は、通学路の安全を保てる回数を探っていく必要がある。 緊急時の対応マニュアルがあるので、職員への周知を行うと共に、安全マニュアルにも取り込むことで、誰でも対応できるような状況にしていく。 アンケート結果がよかったため、次年度も継続して実施していく。 	通学路の変更があったが、上手く移行できている様子である。ガードマンに子どもから声をかけていて微笑ましい。
		○定期的な安全点検や登下校指導。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月(年10回)、各クラスで項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月20日に安全点検の実施を行う事ができた。また、校内で修繕できることはできるだけ早く修理を行う事ができた。反対に、校内では対応できない修繕箇所は、故障や注意箇所の視覚化をすることにとどまり、修理することまではできていない場所もある。 		<ul style="list-style-type: none"> 大規模改修で修理できること、そうではない場所を把握し、緊急で修繕が必要な場所は、継続して報告を挙げていく。 児童に危険が及ぶ場所は危険であることが分かるように視覚化していく。 	校舎が古いままである。	
		○事故防止、交通安全の啓発。	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の下校指導を行う。 毎長期休み前に、交通ルールについての学級指導を行う。 学校周辺の事故の連絡などを行い、児童に危機意識を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月(年10回)、各クラスで項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> 清掃場所にあった清掃用具の見直しを行い、点検や補充を行った。 掃除の仕方や用具の正しい使い方を学年に応じて指導していく必要があった。 壊れたままの清掃用具をなくしたり、清掃用具の補充や使いやすい物を購入したりすることができた。 清掃週間を設けることで、普段掃除の行き届かない場所にも意識を向け取り組むことができた。 ポスターを作ったり、教室点検の際にチェック項目や一言コメントを入れたりすることで、啓発活動を行えた。 クラスの半分の人数で清掃することもあり、掃除箇所に十分な人数の配置が難しいところもあった。 今年度も新型コロナの影響もあったが、5・6年生の児童によるトイレ清掃はあった。5・6年生のトイレ場所以外のトイレは、スクールサポートスタッフにお願いしている。 		
○台風などで警報発令時の通学路・校舎内外の安全点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> 警報が発令された際、職員全体で安全点検の箇所を割り振り、児童の登校時・登校後の安全で安心な教育環境を整える。 校内アンケートにて、「有事の際の組織的な体制や対応は適切である。」の問いに対して「あてはまる」と回答する割合70%になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。 毎月(年10回)、各クラスで項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の定期的な点検と補充等を行い、整備する。 用具の正しい使い方の指導を行う。 壊れたままの清掃用具をなくし、用途に合った清掃用具を揃える。 清掃週間を計画的に設定することで、普段行き届かない箇所にも意識を向け取り組むことができる。 清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の安全点検 ○学校教育環境充実のため 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な学習活動の際の安全確保。 毎月、定例の安全点検の実施とその修繕 		<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の点検・整備 清掃用具の見直し 行事前に清掃週間を実施
○校内の安全点検	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な学習活動の際の安全確保。 毎月、定例の安全点検の実施とその修繕 	<ul style="list-style-type: none"> 項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。 毎月(年10回)、各クラスで項目ごとに安全点検を行いながら、安全で安心な教育環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎月20日に安全点検の実施を行う事ができた。また、校内で修繕できることはできるだけ早く修理を行う事ができた。反対に、校内では対応できない修繕箇所は、故障や注意箇所の視覚化をすることにとどまり、修理することまではできていない場所もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改修で修理できること、そうではない場所を把握し、緊急で修繕が必要な場所は、継続して報告を挙げていく。 児童に危険が及ぶ場所は危険であることが分かるように視覚化していく。 	校舎が古いままである。		
○学校教育環境充実のため	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の点検・整備 清掃用具の見直し 行事前に清掃週間を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の定期的な点検と補充等を行い、整備する。 用具の正しい使い方の指導を行う。 壊れたままの清掃用具をなくし、用途に合った清掃用具を揃える。 清掃週間を計画的に設定することで、普段行き届かない箇所にも意識を向け取り組むことができる。 清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 清掃場所にあった清掃用具の見直しを行い、点検や補充を行った。 掃除の仕方や用具の正しい使い方を学年に応じて指導していく必要があった。 壊れたままの清掃用具をなくしたり、清掃用具の補充や使いやすい物を購入したりすることができた。 清掃週間を設けることで、普段掃除の行き届かない場所にも意識を向け取り組むことができた。 ポスターを作ったり、教室点検の際にチェック項目や一言コメントを入れたりすることで、啓発活動を行えた。 クラスの半分の人数で清掃することもあり、掃除箇所に十分な人数の配置が難しいところもあった。 今年度も新型コロナの影響もあったが、5・6年生の児童によるトイレ清掃はあった。5・6年生のトイレ場所以外のトイレは、スクールサポートスタッフにお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の修理や見直しを行い、きれいな清掃用具が使えるような環境を整えていながら、清掃・整備を継続して行う。 学校全体として、掃除の仕方や正しい用具の使い方、手洗い場やトイレの使い方等、学年に応じてその都度指導することが大切である。 引き続き限られた時間ではあるが、教師がともに清掃に参加することで、児童への声かけや見本となる教師の姿を見せ、児童の清掃活動や環境整備への意識を高める必要がある。 清掃週間などを設定して、より意識して清掃活動に取り組み、清掃の大切さを伝え実施していく。 		5、6年生は人数が多いので机の間が狭い。机が新企画になったら教室に入るのか心配である。(35人学級に移行していく際に新規格の机椅子が入る予定)	

令和4年度 学校評価総括表 伊丹市立天神川小学校							
教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		(1)安心・安全に学習ができる環境づくり (2)学力の向上と指導力の向上 (3)社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 (4)一人ひとりの居場所がある学級集団づくり (5)健やかな心と健やかな体づくり (6)家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
教職員の資質向上	教職員の研修の充実	<p>○授業の質を高める授業研究</p> <p>・校内研修として年1回以上、授業を公開する機会を持つ。</p> <p>・授業の質を高めるための研修、研究の充実を図る。</p>	<p>・全教員が年1回以上、授業を公開する。</p> <p>・講師の先生・教育委員会指導主事によるその時々課題をテーマにした講演を行う。</p> <p>・全学年1回の研究授業と、随時スキルアップ研修を行う。</p> <p>・県や市の研修のお知らせを各担当から積極的に行う。</p> <p>・授業力アップシートを学期に1回配布し、自分の授業を振り返る機会を設ける。</p> <p>・全授業で「めあて」を確認し、「ふりかえり」の時間を確保する。</p>	B	<p>・一人一授業の取り組みを進めることができ、授業力向上につながった。一方で、参観者が少ない授業もあった。</p> <p>・ICT等の研修も含め、スキルアップ研修会を行うことができた。</p> <p>・研究授業は学団研究とし、学団で話し合うことで主題に迫る授業を考えることができた。</p> <p>・授業力アップシートの取り組みが十分ではなかった。</p> <p>・「めあて」「ふりかえり」の型が定着しているが、全授業でできているとは言えない。</p>	<p>・一人一授業を参観できる取り組みを進める。</p> <p>・引き続きスキルアップ研修に取り組む。</p> <p>・引き続き学団での研究に取り組み、学年ごとの系統性をいかした授業づくりを進める。</p> <p>・授業力アップシートを活用しやすいものに変更する。</p> <p>・前年度までの研究の取り組みがいかせるように授業形式を工夫する。</p>	職員が学ぶ時間、機会は大切であるが、取れているのか。時間的な余裕がない、授業を自習にしてまで出にくいいため、夏季休業中などを積極的に使って研修している事を確認できた。
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	教育目標の設定	<p>○全職員の学校教育目標達成に向けた参画</p> <p>○児童の現状を踏まえた教育課程の編成</p>	<p>・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。</p> <p>・兵庫型学習システムを児童の実態に応じて円滑に運営する。</p> <p>・教育課程の編成(よくわかる授業づくり)に関するアンケート項目について「あてはまる」と、回答した教職員が85%以上になる。</p>	A	<p>・学校教育目標に関するアンケート項目について「あてはまる」と回答した教職員は86%だった。今年度は、校時表の一部を改訂し、なかよしタイムを5分のばし20分設けることで、体力向上につながった。</p> <p>・コロナ禍の影響で中止または延期されていた、行事(体育大会、音楽会など)を実施することができた。また、異学年交流も積極的に行うことができ、交流の機会が増えた。</p> <p>・兵庫型学習システムの先生が3名ついた。そこで、専科の理科を3、4年生に、兵庫型学習システムの先生を5、6年理科とした。工夫した実験を取り入れるなど充実した授業を行うことができた。</p> <p>・また5、6年の算数では少人数授業を行うことができた。クラスの人数が多い学年なので、少人数で授業を行うことで、きめ細やかな対応ができた。</p>	<p>・校時表の見直しを行い、現状にあった時間の作成を行っていく。</p> <p>・スズキ校務で集約した校内評価を来年度に活かせるように、各部会の反省の機会を十分に確保する。</p> <p>・来年度も、専科や兵庫型学習システムを上手く活用し、児童の実態に合った対応をしていく。</p>	専科、兵庫型学習システムを今後も積極的に活用して欲しい。
【学校関係者評価総括】							
<p>○今後も、学校運営協議会のできることを協議しながらより良い学校運営ができるように参画していきたい。</p> <p>○学校・地域・家庭を積極的に繋ぎ、学校以外の視点(自治会・児童民生委員・スポーツ21・PTA等)から支援していきたい。</p>							
【次年度に向けた重点的な改善点】							
<p>○職員が様々な事情で欠ける中、保護者にご理解いただきながら学校運営をしてきた。職員の組織力を高めると共に、学校運営協議会の支えを受けながら今後も『命かがやき 笑顔あふれる天神川小学校』の学校づくりを目指す。</p> <p>・来年度も引き続き、児童が「学校は楽しい、勉強はよくわかる」と笑顔で答えることができるような取り組みを進める。</p> <p>・職員集団・保護者・地域・学校運営協議会が天小チームとして、学校運営を行っていく。</p> <p>・地域やPTA発信の子どもや児童に向けた活動(安全教育等)を天神川小学校地区自治協議会地域ビジョンと合わせて行っていきたい。</p>							

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った